

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発事業）
「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域
平成27年度採択プロジェクト企画調査 事後評価報告書

平成28年5月17日
領域総括 大守 隆

1. 研究代表者：亀岡 孝治 三重大学大学院生物資源学研究科 教授
2. 課 題 名：輝く女性のワークライフバランスを通じた持続可能な地域デザイン
3. 期 間：平成27年10月～平成28年3月

4. プロジェクト企画調査の概要

本企画調査は、農林水産業や建設業など、地域社会や経済を支える基盤の維持や強化に向けて女性の就労・活躍に着目し、女性が全てのライフステージを通して地域で安心して生活が営めるような仕組みづくりを目指すものであり、本提案における多世代共創の明確化や構想の具体化に向けて、4項目からなる調査を実施した。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標達成状況

研究開発プロジェクトの提案に向けて有用な知見が得られているものの、プロジェクト企画調査の目標については一部達成されなかった。持続可能な社会の実現に向けて女性に着目した点は、多様性の観点からも意義のあるものである。しかしながら、多世代共創の視点が依然として不明瞭である。また、女性のワークライフバランスや働きやすさ、活躍の場を考えることを通して、新しい農林水産業等のあり方を提示していくことや、地域に残った女性のみならず、若い女性の UJI ターンを促すといった当初の視点が薄れ、テーマがやや曖昧になっているようにも思われる。ワークショップやインターンシップを通して得られた知見は一般的であり、研究開発として何を明らかにしようとしているのか、類似の取り組みとの違いや特徴がどのような点にあるのか、十分に伝わってこなかった。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案に向けて

本提案における多世代共創について、どのような多世代（子ども、若者、高齢者や、地方在住、都市在住等）が、どのような交流を行うことで、何を共創していくのか、持続可能性との関係も含めて具体的に提示することが求められる。また、類似の取り組みや従来の研究との違いを明確にし、本提案の必要性や重要性を分かりやすく提示することが望ま

れる。調査の実施前後で、情報や認識の違いが明らかになった様子が窺えたが、それは地域で活躍する女性の声が反映された結果と思われる。プロジェクト提案を検討するにあたっては、多様な形で地域に根差して活躍する女性や、農林水産業や観光等の現場にいる人々と共に具体的な問題設定を行っていただきたい。そして、研究開発として明らかにしたいことや課題、プロジェクトの実施計画、目指す成果について、明確化することを期待する。また、提案する活動が、どのような人々に対し、どのような変化を促そうとするのか、またどのような効果がもたらされるのかについても明示することが望まれる。

以上

<別紙：評価者一覧>

| | 氏名 | 所属・役職 |
|--------------|--------|--|
| 領域総括 | 大守 隆 | 元 内閣府 政策参与／元 大阪大学 教授 |
| 領域 アドバイザー | 石田 秀輝 | 合同会社地球村研究室 代表社員／東北大学 名誉教授 |
| | 大和田 順子 | 一般社団法人ロハス・ビジネス・アライアンス 共同代表 ／立教大学大学院 21 世紀デザイン研究科 兼任講師 |
| | 岡部 明子 | 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授 |
| | 後藤 和子 | 摂南大学 経済学部 教授 |
| | 西郷 真理子 | 株式会社まちづくりカンパニー・シープネットワーク 代 表取締役 |
| | 相馬 直子 | 横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 准教授 |
| | 藤江 幸一 | 横浜国立大学 大学院先端科学高等研究院 教授 |
| | 前野 隆司 | 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究 科 教授 |
| | 南 学 | 東洋大学 経済学研究科 客員教授 |
| | 村上 清明 | 株式会社三菱総合研究所 研究理事 |
| | 柳川 範之 | 東京大学 大学院経済学研究科 教授 |